1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4099300024
法人名	有限会社　祝
事業所名	グループホーム　桜木荘
所在地	t福岡県田川郡添田町大字庄２５４９－１
自己評価作成日	平成26年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目７番６号		
訪問調査日	平成27年1月21日	評価結果確定日	平成27年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域に根差した施設を目指しており社会資源を有効に使いながら入居者様が毎日生き生きとした生活が出来るように職員一同取り組んでいます。四季を通じての外出や施設の裏の畑で採れた野菜を入居者様と一緒に収穫して食卓に提供しています。米も地元の農家の新米を使用しています。入居者様やご家族にも好評を得ています。訪問歯科・訪問理容・地元の医院の往診などのサービスもおこなっています。運営推進会議も2か月に1回定期開催しご家族からの意見や要望・行政区長・役場の福祉担当職員・地域包括支援センター・社会福祉協議会からの情報など、意見交換を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近隣小学校の運動会への参加、介護体験の受け入れ、クリスマス会、餅つきなど、地域の大人から子供まで交流ができる行事計画が行われている。高台に位置する広大な敷地内では、入居者、職員が協同で野菜を育て、収穫の喜びを共に味わっている。旬の食材を用いた手作りの食事は、工夫やアイデアが豊富で、出汁へのこだわりや冷凍食品を用いない等、「食」の充実に向けて取り組んでおり、入居者、家族にも好評を得ている。2ヶ月に１回開催される運営推進会議には、行政や地域包括支援センター、行政区長等の出席を得ており、事業所の実状を報告しながら、開かれた事業運営を行っている。27年度には、隣接して障害福祉サービス事業の開設も予定されており、新たな交流や連携と共に、福祉拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に理念を掲げ毎朝、申し送り後に全員で唱和し理念を共有して理念にもとづいた介護が出来るように努めている。	地域密着型サービスとしての理念のもとに、職員の意見が反映された5項目の「モットー」を掲げ、毎朝、全員で唱和することで、常に意識しながら実践に結びつけるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員も地域から雇い管理者も地元なので地域とのつながりがある。地域の小学校の運動会に参加したり施設の行事・催しなどに地域の方々の参加をして頂き交流を行っている。	地域の小学校の運動会への参加や、事業所での季節の行事（運動会、クリスマス会、餅つきなど）を開催することにより、子供から大人まで、地域の方々との交流機会を持っている。隣接して障がい福祉サービス事業所の開設も決まり、新たな交流や連携も期待できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に対しては認知症の理解や支援の方法など発信はされていないと思うが地元の小学校の児童や先生方との交流でいくらかは理解されている。また、地域の方々からの施設の受け入れや相談、要望にも快く応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開催し役場職員・行政区長・ご家族・地域包括の職員が参加され施設での状況報告、事故報告、行事報告などが行われ、意見や要望などを伺いサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、家族、行政区長、役場職員、地域包括支援センター職員の参加で定期開催されている。意見交換やアドバイスを受けることによりサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の福祉担当職員や広報担当職員と連携をとり協力関係を築いている。また広域連合や地域包括支援センターの職員にも施設の相談や指導を仰いでいる。	運営推進会議への行政担当者および地域包括支援センター職員の出席を得ており、相談しやすい関係を保っている。また、ケースワーカーとの連携を図ることで情報共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では身体拘束は行っていない。徘徊者にも常に職員が付き添い荘外散歩や施設内でも常に見守りを行っている。玄関の施錠もしていない。	定期的な職員会議等の場で、禁止の対象となる具体的な行為や抑圧感のない暮らしについて共有認識が持てるように取り組んでいる。玄関も施錠されておらず、開放的な生活空間の中で、個別の距離感にも配慮しながら支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議などで学ぶ機会をもち当施設では虐待も無く職員一同が理念にもとづいた優しく丁寧に入居者様に接しており安心した笑顔がたくさん見られる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている入居者様のご家族が一人おられ後見人に弁護士をたてています。今後、施設内学習会や研修会などに取り組んでいきます。	権利擁護に関する制度について、身近な制度として関わる機会もあり、その過程を通じて学ぶ場面も多い。今後は職員の学ぶ機会の確保や資料の整備を予定している。	権利擁護制度の理念や意義について、職員の理解を深めると共に、家族や地域に向けた情報発信についても、今後の働きかけが期待されます。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い締結時にも再確認をしている。解約時や改定等の際は入居者様やご家族の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解・納得をしていただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者様やご家族に意見や要望を聞くようにしている。それら吸い上げた意見や要望を施設に反映させるように努めている。	来訪時や日々の会話の中で、意見や要望の収集に努めている。具体的な対策や「自立支援」に関する方針を伝え、家族との方針の共有や連携に向けた働きかけに努めている。家族会が発足している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中で気付いた事はその日に管理者に伝え会議での意見や要望・提案を施設の行事に取り入れている。	職員会議や日常の中で、行事の提案や業務改善について意見の収集に努め、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めてはいるが給料水準が低いといわれている。休憩時間などは各自工夫をしてとっている。職場環境・条件の整備にも努めてはいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢などの理由で採用から排除することはない。本人のやる気と介護に関心のある人を採用するようにしている。また、個々の職員がいきいきとやりがいを持って勤務出来るようにしている。	職員の採用にあたり、年齢や性別、資格等により対象から排除することはない。社会的な課題でもある職員の定着とモチベーションの確保について模索し、職員個々のキャリアやスキルを受け止められるよう、職場環境作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員会議や申し送りなどで入居者様の人権について話し合っている。	理念の共有や会議の中で取り上げ、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。外部研修参加について課題としており、運営推進会議を活用した出張講座の開催も含め、今後取り組む意向である。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チームケアを大切にして一人ひとりのケアの実際、力量を把握し法人内外の研修を受けるようにしている。社内での学習会も設け職員の質の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今のところ交流する機会・場などは設けてはいない。地元の同業施設との交流はある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話での問い合わせ時、見学時の時から本人が困っている事、不安な事、要望などを聞くようにしている。本人が安心して生活が出来るように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員もご家族対応時には施設に対して不安な事や要望を常に聞くように努めそれを管理者・職員間で連携している。本人が安心して生活できるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族の要望を聞き満足できるように職員間でも連携を保ちながら今一番して欲しいサービスと他のサービス利用も含めて対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事はして頂き時には料理・味付けなども一緒にし、洗濯物を畳むのは日課になっている。家族の一員として職員のわからない事も教えて頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援していく上でわからない事はご家族に相談したり共に悩みながら利用者様を支えていけるように協力して頂いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時に、時には一緒に食事をして頂いたり住まれていた場所に足を運んだりと支援に努めている。	これまでの暮らしの継続として、毎月の法要を欠かさないことや、馴染みの方の訪問を歓迎している。毎月、家族に向けて写真と共に状況報告を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように常に見守り声掛けを行い談話室での利用者様同士の会話にも耳を傾け行事やレクリエーションに参加していただけるように努力している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されてそのまま退所された利用者様の面会やご家族との関係を大事にしている。相談や支援にも柔軟に対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様に要望を聞き希望、意向に沿った支援に努めている。一人ひとりの思いや暮らし方を大切にし困難な入居者様は本人本位で対応している。	担当制を導入し、日常の中での言葉や表情の変化、仕草等から、思いや意向の把握に努めており、入居者の方々の豊かな表情や自由な過ごし方から、日々の実践がうかがえる。職員個々が持つ情報の集約については、今後の充実が期待されます。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から契約時にいただいた入居者様の生活歴や暮らし方、生活環境、これまで受けられたサービスなどを職員全員でこれらの情報の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して利用者様の過ごし方心身状態など職員も都度申し送りながら現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすための課題とケアは全職員で会議時、介助時、ご家族との話し合いでも意見交換、アイデアを出し合って現状に応じた介護計画を作成している。	担当職員が、入居者や家族の思いやニーズの把握に努め、計画作成担当者や職員会議の時に意見交換等を行い介護計画書を作成されている。一つ一つの記録（バイタル、食事量など）は細かく記載されている。	アセスメントの充実や介護計画に沿ったケア内容が、職員全員に確認、把握しやすいよう、記録やモニタリングの様式等に工夫されることが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録、申し送り記録、バイタル記録など全職員で共有し気付いた事、工夫、見直しも行いながら実践に生かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が来園された時などに可能な限り管理者や職員は意見や要望を聞きその時のニーズに応えるようにしている。柔軟な支援を心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政区、役場、小学校などと協力関係を築きながら入居者様が安心して笑顔で楽しい暮らしが出来るように地域資源を活用して支援に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望を大切にして納得が得られた訪問医師、看護に診ていただき近況報告後、指示に従い時には必要な専門医療などで対応している。	入居時に、かかりつけ医について希望を確認している。また、協力医療機関より訪問診療が実施され、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護士に日常の中での気付いたことや変化を伝え職員間でも情報共有して適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した時など安心して治療できるようにご家族様や病院関係者などに連携を図りながら支援をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、本人やご家族様と話し合いをして施設として出来る事を説明して方針を共有して同意を得てその後の在り方を支援していきたい。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に事業所としての方針を説明し、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認や関係者での話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変、事故発生時は提示している緊急連絡先に連絡をして指示を仰ぎ速やかに対応できるように心がけ訪問看護に応急処置の仕方など教えていただいている。また年2回、消防署に来ていただき訓練も実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害などに備え施設自衛の役割分担を決めて事務所に掲示している。また年2回の消防署の指導による避難訓練にも参加している。	消防訓練を年2回（1回は夜間想定）実施しており、事務所内には緊急時、災害時の各職員の役割分担表を掲示しており普段から職員の意識付けに努めている。	地域との交流や連携も広がっており、災害対策にも活かしていくことが期待されます。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のこだわりや性格を把握しプライバシーには配慮して言葉使いにも気をつけて対応している。	家庭的な親しみやすさや伝わる言葉としての方言を用いた会話等、和やかな雰囲気から日常のコミュニケーションや信頼関係が伝わってくる。ミーティングや日々の中で振り返る機会を持ち、互いに注意しあえる関係作りに努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様を常に観察し傾聴も行い納得されるように対応している。表情、動作で何を思われているのかを気付くように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様第一で本人のペースに合わせた支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族様の要望に合わせて支援をしている。また、月1回、訪問理容の方に来ていただき希望者には散髪、カットをしていただき、その人らしい整容が出来るように支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食べた物を話したり下準備や時には味付けもしていただき畑で採れた野菜（収穫も一緒に）を調理して食事を楽しんでいる。	食の充実は当事業所の特徴でもあり、工夫やアイデアが充分に発揮され、冷凍食品を使用せず、出汁からこだわりながら食事を提供している。敷地内の畑の生育や収穫の喜びを共有しながら、旬を味わったり、天候の良い日は庭に出て昼食を摂ったりと、季節感や雰囲気作りに変化を取り入れている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に個々人の食事摂取量、水分量を記入し少ない時には調理の工夫をしたりきざみ食や甘味、ジェリーにして水分を摂るなど美味しく摂取して頂けるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員起床時、毎食後の口腔ケアを行っている。状態に応じて訪問歯科にも連絡、指示を仰いでいる。一人ひとりに合わせて介助を行い義歯の洗浄、消毒の管理をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様全員の排泄パターンを把握して今現在も全員の方がトイレでの排泄をされ現状維持に努めている。	個別の排泄状況やパターンの把握に努め、ミーティング等にて情報共有や個別ケアについて話し合っている。日中はおむつを使用している方はなく、声かけやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる原因を常に考え繊維質な食べ物の摂取や水分量の確認、散歩など運動の声掛けをし排便が困難な時は腹部マッサージなどを行い3日以降は担当医とも相談し便秘薬にて対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の希望、その日の体調に合わせ支援をしている。入浴拒否された時も無理強いはせず本人の希望に沿って支援をしている。日時をずらすなどして次回に入浴していただけるように心がけている。	ある程度の入浴スケジュールは設定しているが、その日の希望や体調、状況等に応じて柔軟な対応に努めている。毎日の希望があれば、対応可能である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じて安心して気持ち良く眠れるように冷暖房、空調調節、衣類,寝具にも気を配っている。日中、1時間の昼寝もされている利用者様もいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法についても理解しバイタルチェック表にも必ず服薬確認を記入している。また変化のある時は担当医師に連絡、相談し観察を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事を普段の会話の中で見つけ出し楽しんで気分転換できるように、また他の入居者様とも共有できる作業への参加の声掛けも行い生活に張り合いがもてるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて散歩をしたり、畑に行ったりしている。また外出行事を企画して四季を通じて出かけている。天気の良い日など畑内での昼食、おやつなども食べれるようにしている。	敷地内の庭でおやつを食べたり、散歩に出たりと、日常的に外出支援を行っている。季節に応じた花見等の外出行事を企画したり、運動会や祭り等の地域の行事にも参加している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設がお金を管理しているが一緒に買い物に行った時などは職員立ち合いのもとでお金を払っている。本人の希望に合わせて使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話をいつでも使えるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は職員との共同作業で作った手作りの物や入居者様が作られた物で沢山飾っています。現在は水槽で飼っているメダカの成長を楽しみにされ各行事の写真、貼り絵なども掲示し楽しく季節感がわかるように努めている。	玄関からリビングまで、一体的なオープンスペースとなっており、明るく開放感がある。手作りの作品等は、細やかな配慮のもと展示されており、日常の取り組みがうかがえる。自然が多い周囲の彩の変化を眺めたり、敷地内の畑の様子を確認したりと、季節感を肌で感じられる環境である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室では個々人がそれぞれレクリエーションを楽しまれたり物作りを共有されたりソファーやマッサージ機で休まれたり思い思いの時間を過ごせるように支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族の意向に沿って今まで使用されていた家具や仏壇も置いています。壁にもご家族の写真を飾ったり自分の家だと思っていただけるように支援している。	各居室は個別性が現れており、これまでの生活がよくみられる家具の配置の方や、家族との関係性が伝わる居室もある。利用者の方が居心地よく過ごせるように工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の出来る事、わかる事を活かして居室内も掃除をしていただく為に掃除道具も準備して見守りをしながら対応している。一人ひとりが安心して自立した生活が送れるように安全に配慮している。		